

1. 科目名 (単位数)	教育心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開) (2単位)	3. 科目番号	PSMP5232
2. 授業担当教員	石川 清子		
4. 授業形態	講義・演習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・ 他科目との関係		履修形態 (通信教育)	R
7. 講義概要	教育心理学とは「教育」をめぐる子どもたちとその家族や学校環境にいる教師などの心の発達を心理学の知識と方法を用いて明らかにし、教育の改善に資するために近年では心の健康に対する指導と支援の在り方を探求する学問である。教育哲学や心理学の視点より基礎領域について概説し、最近の教育現場において見られる思春期および青年期の問題に対する相談及び指導・援助に関して教育心理学的見地から取り上げ分析し考察する。現代社会における教育現場の状況における諸事例を取り上げながら、社会的・文化的変容と事前の問題点と解決過程について検討する。		
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学の基礎知識を学習するとともに、発達のメカニズム・学習のメカニズム・学習環境と教育実践の領域における研究動向を知り、いくつかの論文購読を進める。 2. 子どもが青年期に向け心理的ウェルビーイングを維持しつつ、必要な基礎学力を身につけていくための施策を考察する。 3. 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報提供の在り方を理解する。 		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	シラバス「14 学習の展開及び内容」の各テーマを参照。		
10. 教科書・参考書 ・教材	<p>【教科書】 安藤寿康・鹿毛雅治『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』慶応義塾大学出版、2013年 各講義の資料配布</p> <p>【参考文献】 藤土圭三『心理学からみた教育の世界』北大路書房、2013年 三宅芳雄『教育心理学特論』放送大学教育振興会、2012年 Richard D. Parsons, et. al. Educational Psychology: A Practitioner-Researcher Model of Teaching. West Chester University. 2001 内田照彦・増田公男『要説発達・学習・教育臨床の心理学』北大路書房、2000年</p>		
11. 成績評価の規準と 評定の方法	<p>○成績評価の規準 上記の目標を達成できること。</p> <p>○評定の方法 発表レジュメ 40%、討論への参加度 20%、ファイナルペーパー 40%。 100～90 : A, 89～80 : B+, 79～70 : B, 69～60 : C, 59～ : F</p>		
12. 受講生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> * 臨床心理士という専門家としての視野を広げるためにも、近年の教育環境で起きている社会問題を心理学的視点より把握していることは重要です。したがって、各課題に対し文献検索作業を徹底してください。 * 通信生は特に疑問が生じたときには、大学に来校するかその他の手続きによって、教授より指示を仰いでください (E-mail による質問等を受けつけます。kiishika@ed.tokyo-fukushi.ac.jp)。 * 批評・討論の力を養うためにも、積極的に文献研究を行ってください。 * 各課題で添付する研究論文のコピーは、返却いたしませんのでご承知ください。 		
13. オフィスアワー	追って連絡いたします。		
14	学習の展開及び内容【テーマ、学習の目標、学習の内容、キーワード、学習の課題、学習する上でのポイント等】		
1. テーマ	現代の教育心理学とは何か		
【学習の目標】	教科書『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』序章より以下の点を学んでいく。 1. 教育心理学という学問がみる「教育」を概観し、教育とはどのような営みを意味しているのか理解する。 2. 教育心理学の理念、目的について学ぶ。		
【学習の内容】	教育心理学が持つべき社会的役割について歴史背景を視野に入れ学ぶ。		
【キーワード】	教育心理学・教育・社会的成長		
【学習の課題】	教育心理学が直面している問題点を確認する。		
【参考文献】	安藤寿康・鹿毛雅治『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』慶応義塾大学出版、2013年 三宅芳雄『教育心理学特論』放送大学教育振興会、2012年		
【学習する上での留意点】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 報告レジュメ (3,000 字) 作成においては、表題をつけて、どの観点から討論をしているのかが分かるように配慮してください。なお、引用文献は、少なくとも 3 つ、そのうち一つは、研究論文であること。研究論文は、コピーしたものを添付してください。 2. 各章を分担して割り当てるので、院生各自がまとめて発表すること。 		
2. テーマ	教育心理学がみる「発達」とは何か		
【学習の目標】	教科書『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』第 1 章と『心理学からみた教育の世界』 2 章より以下の点を学んでいく。 1. 発達とは何か、発達することとは何か 2. 知性の発達と文化的影響 3. 道徳感情の「感謝」の意味とは		

<p>【学習の内容】 教育心理学がみる発達を理解し、教育現場との見解の違いについて考察する。</p> <p>【キーワード】 知性を個人差・ヒトの知性・教育現場との協働</p> <p>【学習の課題】 教育心理学が社会に果たす役割を確認する。</p> <p>【参考文献】 安藤寿康・鹿毛雅治『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』慶応義塾大学出版、2013年 三宅芳雄『教育心理学特論』放送大学教育振興会、2012年</p> <p>【学習する上での留意点】 第1回目の内容を確認してください。</p>	
3 . テ ー マ	言語発達における最近の研究動向
<p>【学習の目標】 教科書『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』第2章より以下の点を学んでいく。</p> <p>1. 近年の言語発達に関する研究の動向を知る。</p> <p>2. デジタル化した社会における言語性に関わる問題点を確認する。</p> <p>【学習の内容】 最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関係する研究を取り上げ、論文講読をする。</p> <p>【キーワード】 言語の発達・思考の発達・コミュニケーションスキル</p> <p>【学習の課題】 子どもの言語の発達・思考の発達における研究の動向とデジタル化した社会教育環境の問題点を確認する。</p> <p>【参考文献】 安藤寿康・鹿毛雅治『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』慶応義塾大学出版、2013年 三宅芳雄『教育心理学特論』放送大学教育振興会、2012年</p> <p>【学習する上での留意点】 第1回目の内容を確認してください。</p>	
4 . テ ー マ	教育心理学がみる「社会性の発達」
<p>【学習の目標】 教科書『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』第3章と『心理学からみた教育の世界』4章より以下の点を学んでいく。</p> <p>1. 近年の社会性の発達に関する研究の動向を知る。</p> <p>2. 本領域に関わる問題点を確認する。</p> <p>3. 相談及び指導とその他援助の在り方。</p> <p>【学習の内容】 最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関係する研究を取り上げ、論文講読をする。</p> <p>【キーワード】 社会性の発達・社会関係・社会的認知・個性化</p> <p>【学習の課題】 社会性の発達および個性化において重要な人間関係の在り方をもとに発達における研究の動向と教育環境の問題点を確認する。</p> <p>【参考文献】 安藤寿康・鹿毛雅治『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』慶応義塾大学出版、2013年 三宅芳雄『教育心理学特論』放送大学教育振興会、2012年</p> <p>【学習する上での留意点】 第1回目の内容を確認してください。</p>	
5 . テ ー マ	教育心理学がみる「パーソナリティ」
<p>【学習の目標】 教科書『心理学からみた教育の世界』5章と『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』第1部第4章より以下の点を学んでいく。</p> <p>1. 近年の学校適応に関する研究の動向を知る。</p> <p>2. 本領域に関わる問題点を確認する。</p> <p>3. 相談及び指導とその他援助の在り方。</p> <p>【学習の内容】 最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関係する研究を取り上げ、論文講読をする。</p> <p>【キーワード】 学校不適応・自尊感情・遺伝と環境</p> <p>【学習の課題】 子どもを取り巻く学校ストレスと学校不適応について理解し、その研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。</p> <p>【参考文献】 安藤寿康・鹿毛雅治『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』慶応義塾大学出版、2013年 藤土圭三『心理学からみた教育の世界』北大路書房、2013年 三宅芳雄『教育心理学特論』放送大学教育振興会、2012年</p> <p>【学習する上での留意点】 第1回目の内容を確認してください。</p>	
6 . テ ー マ	教育心理学がみる「学習」
<p>【学習の目標】 教科書『心理学からみた教育の世界』3章と『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』第2部1章2章より以下の点を学んでいく。</p> <p>1. 知的獲得の意味を確認する。</p> <p>2. 思考に関わる研究の動向を知る。</p> <p>【学習の内容】 最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関係する研究を取り上げ、論文講読をする。</p> <p>【キーワード】 記憶の3段階・メタ認知・問題解決</p> <p>【学習の課題】 思考力を育む環境要因について理解し、その育成の在り方について考察し、その研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。</p> <p>【参考文献】 安藤寿康・鹿毛雅治『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』慶応義塾大学出版、2013年 藤土圭三『心理学からみた教育の世界』北大路書房、2013年 三宅芳雄『教育心理学特論』放送大学教育振興会、2012年</p> <p>【学習する上での留意点】 第1回目の内容を確認してください。</p>	
7 . テ ー マ	学習と動機づけにおける最近の研究動向1
<p>【学習の目標】 教科書『心理学からみた教育の世界』3章と『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』第2部3章より以下の点を学んでいく。</p> <p>1. 近年の学習と動機づけに関する研究の動向を知る。</p> <p>2. 本領域に関わる問題点を確認する。</p> <p>3. 相談及び指導とその他援助の在り方。</p>	

<p>【学習の内容】 最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関する研究を取り上げ、論文講読をする。</p> <p>【キーワード】 学習・動機づけ・随伴性認知・自己効力</p> <p>【学習の課題】 学習の機能について理解し、子どもの動機付けの在り方について考察する。本研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。</p> <p>【参考文献】 安藤寿康・鹿毛雅治『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』慶応義塾大学出版、2013年 藤土圭三『心理学からみた教育の世界』北大路書房、2013年 三宅芳雄『教育心理学特論』放送大学教育振興会、2012年 荒木紀幸『教育心理学の最先端：自尊感情の育成と学校生活の充実』あいり出版、2011年 松原達也編『教育心理学』丸善出版、2013年</p> <p>【学習する上での留意点】 第1回目の内容を確認してください。</p>	<p>最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関する研究を取り上げ、論文講読をする。</p> <p>学習・動機づけ・随伴性認知・自己効力</p> <p>学習の機能について理解し、子どもの動機付けの在り方について考察する。本研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。</p> <p>安藤寿康・鹿毛雅治『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』慶応義塾大学出版、2013年 藤土圭三『心理学からみた教育の世界』北大路書房、2013年 三宅芳雄『教育心理学特論』放送大学教育振興会、2012年 荒木紀幸『教育心理学の最先端：自尊感情の育成と学校生活の充実』あいり出版、2011年 松原達也編『教育心理学』丸善出版、2013年</p> <p>第1回目の内容を確認してください。</p>
8 . テーマ	学習と動機づけにおける最近の研究動向2
<p>【学習の目標】 教科書『心理学からみた教育の世界』3章と『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』第2部3章より以下の点を学んでいく。</p> <p>1. 近年の学習と動機づけに関する研究の動向を知る。</p> <p>2. 本領域に関わる問題点を確認する。</p> <p>3. 相談及び指導とその他援助の在り方。</p> <p>【学習の内容】 最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関する研究を取り上げ、論文講読をする。</p> <p>【キーワード】 動機付け・自己効力感・生きる力・人間関係・本来性・ウェルビーイング</p> <p>【学習の課題】 人間関係論の視点より見た子どもの動機づけとの関連を理解し、本研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。</p> <p>【参考文献】 安藤寿康・鹿毛雅治『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』慶応義塾大学出版、2013年 藤土圭三『心理学からみた教育の世界』北大路書房、2013年 Kernis, M.H. <i>Toward a conceptualization of optimal self-esteem. Psychological Inquiry</i>, 14.1-26. 2003 Gecas, V. <i>The self as a social force.</i> In T.J. Owens, S. Stryker & N. Goodman (Eds), <i>Extending self-esteem theory and research.</i> Cambridge: Cambridge University Press. pp.85-100. 2001 Harter, s. <i>Authenticity,</i> In C.S. Snyder & L.J. Shane (Eds), <i>Handbook of positive psychology,</i> London: Oxford University Press. pp.366-381. 2002 荒木紀幸『教育心理学の最先端：自尊感情の育成と学校生活の充実』あいり出版、2011年 多鹿秀継『教育心理学：「生きる力」を身につけるために』サイエンス社、2001年 Charlton, T. <i>Giving Access to the National Curriculum 'by working on the "Self".</i> In K. Jones & T. Charlton (Eds.) <i>Learning Difficulties in Primary Classrooms.</i> London and New York: Routledge. 1992</p> <p>【学習する上での留意点】 第1回目の内容を確認してください。</p>	<p>教科書『心理学からみた教育の世界』3章と『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』第2部3章より以下の点を学んでいく。</p> <p>1. 近年の学習と動機づけに関する研究の動向を知る。</p> <p>2. 本領域に関わる問題点を確認する。</p> <p>3. 相談及び指導とその他援助の在り方。</p> <p>最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関する研究を取り上げ、論文講読をする。</p> <p>動機付け・自己効力感・生きる力・人間関係・本来性・ウェルビーイング</p> <p>人間関係論の視点より見た子どもの動機づけとの関連を理解し、本研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。</p> <p>安藤寿康・鹿毛雅治『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』慶応義塾大学出版、2013年 藤土圭三『心理学からみた教育の世界』北大路書房、2013年 Kernis, M.H. <i>Toward a conceptualization of optimal self-esteem. Psychological Inquiry</i>, 14.1-26. 2003 Gecas, V. <i>The self as a social force.</i> In T.J. Owens, S. Stryker & N. Goodman (Eds), <i>Extending self-esteem theory and research.</i> Cambridge: Cambridge University Press. pp.85-100. 2001 Harter, s. <i>Authenticity,</i> In C.S. Snyder & L.J. Shane (Eds), <i>Handbook of positive psychology,</i> London: Oxford University Press. pp.366-381. 2002 荒木紀幸『教育心理学の最先端：自尊感情の育成と学校生活の充実』あいり出版、2011年 多鹿秀継『教育心理学：「生きる力」を身につけるために』サイエンス社、2001年 Charlton, T. <i>Giving Access to the National Curriculum 'by working on the "Self".</i> In K. Jones & T. Charlton (Eds.) <i>Learning Difficulties in Primary Classrooms.</i> London and New York: Routledge. 1992</p> <p>第1回目の内容を確認してください。</p>
9 . テーマ	まとめ
<p>【学習の目標】 本講義の中核的なテーマである「教育環境における子どもの健全な発達」に関して、これまでの先行研究の講読をもとに、現状の問題解決に向けて、研究の動向についてディスカッションを通し確認する。</p> <p>【学習の内容】 教育心理学の目的、方法、内容についてまとめる。</p> <p>【学習の課題】 教育心理学の目的、方法、内容についてまとめる。</p> <p>【学習する上での留意点】 第1回目の内容を確認してください。</p>	<p>本講義の中核的なテーマである「教育環境における子どもの健全な発達」に関して、これまでの先行研究の講読をもとに、現状の問題解決に向けて、研究の動向についてディスカッションを通し確認する。</p> <p>教育心理学の目的、方法、内容についてまとめる。</p> <p>教育心理学の目的、方法、内容についてまとめる。</p> <p>第1回目の内容を確認してください。</p>
10 . テーマ	教育心理学がみる「学習環境」
<p>【学習の目標】 教科書『心理学からみた教育の世界』3章と『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』第3部1章より以下の点を学んでいく。</p> <p>1. 近年の自尊感情に関する研究の動向を知る。</p> <p>2. 本領域に関わる問題点を確認する。</p> <p>3. 相談及び指導とその他援助の在り方。</p> <p>【学習の内容】 最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関する研究を取り上げ、論文を講読する。</p> <p>【キーワード】 学習環境・教育方法・教えること</p> <p>【学習の課題】 人間関係論の視点より見た学習環境を理解し、本研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。</p> <p>【参考文献】 安藤寿康・鹿毛雅治『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』慶応義塾大学出版、2013年 藤土圭三『心理学からみた教育の世界』北大路書房、2013年 三宅芳雄『教育心理学特論』放送大学教育振興会、2012年 荒木紀幸『教育心理学の最先端：自尊感情の育成と学校生活の充実』あいり出版、2011年 松原達也編『教育心理学』丸善出版、2013年</p> <p>【学習する上での留意点】 第1回目の内容を確認してください。</p>	<p>教科書『心理学からみた教育の世界』3章と『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』第3部1章より以下の点を学んでいく。</p> <p>1. 近年の自尊感情に関する研究の動向を知る。</p> <p>2. 本領域に関わる問題点を確認する。</p> <p>3. 相談及び指導とその他援助の在り方。</p> <p>最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関する研究を取り上げ、論文を講読する。</p> <p>学習環境・教育方法・教えること</p> <p>人間関係論の視点より見た学習環境を理解し、本研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。</p> <p>安藤寿康・鹿毛雅治『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』慶応義塾大学出版、2013年 藤土圭三『心理学からみた教育の世界』北大路書房、2013年 三宅芳雄『教育心理学特論』放送大学教育振興会、2012年 荒木紀幸『教育心理学の最先端：自尊感情の育成と学校生活の充実』あいり出版、2011年 松原達也編『教育心理学』丸善出版、2013年</p> <p>第1回目の内容を確認してください。</p>
11 . テーマ	教育心理学がみる「評価」
<p>【学習の目標】 教科書『心理学からみた教育の世界』7章と『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』第3部2章より以下の点を学んでいく。</p> <p>1. 近年の評価に関する研究の動向を知る。</p> <p>2. 本領域に関わる問題点を確認する。</p> <p>【学習の内容】 最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関する研究を取り上げ、論文を講読する。</p> <p>【キーワード】 学習評価・妥当性と信頼性・「いい子」像</p> <p>【学習の課題】 子どもの学習への動機づけ、本来性、自己概念の育成からみた、授業論・学習成立の型・教育評価・「真の評価」論について考察する。また本研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。</p>	<p>教科書『心理学からみた教育の世界』7章と『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』第3部2章より以下の点を学んでいく。</p> <p>1. 近年の評価に関する研究の動向を知る。</p> <p>2. 本領域に関わる問題点を確認する。</p> <p>最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関する研究を取り上げ、論文を講読する。</p> <p>学習評価・妥当性と信頼性・「いい子」像</p> <p>子どもの学習への動機づけ、本来性、自己概念の育成からみた、授業論・学習成立の型・教育評価・「真の評価」論について考察する。また本研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。</p>

【参考文献】	安藤寿康・鹿毛雅治『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』慶応義塾大学出版、2013年 藤土圭三『心理学からみた教育の世界』北大路書房、2013年 荒木紀幸『教育心理学の最先端：自尊感情の育成と学校生活の充実』あいり出版、2011年 松原達也編『教育心理学』丸善出版、2013年
【学習する上での留意点】	第1回目の内容を確認してください。
1 2 . テ ー マ	教育とカウンセリングにおける最近の研究動向
【学習の目標】	教科書『心理学からみた教育の世界』6章と『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』第3部3章より以下の点を学んでいく。 1. 近年の教育とカウンセリングの共同に関する研究の動向を知る。 2. 本領域に関わる問題点を確認する。 3. 相談及び指導とその他援助の在り方。
【学習の内容】	最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関係する研究を取り上げ、論文を講読する。
【キーワード】	スクールカウンセラー・教育相談・カウンセリングマインド・思春期心性
【学習の課題】	子どもの独り立ちを支える教育環境としての教師やスクールカウンセラーなどの専門家の役割について考察する。また本研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。
【参考文献】	松原達也編『教育心理学』丸善出版、2013年 安藤寿康・鹿毛雅治『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』慶応義塾大学出版、2013年 藤土圭三『心理学からみた教育の世界』北大路書房、2013年 荒木紀幸『教育心理学の最先端：自尊感情の育成と学校生活の充実』あいり出版、2011年 小谷英文『心の安全空間』「現代のエスプリ」別冊、至文堂、2005年 北尾倫彦『自己教育力を育てる先生』図書文化、1986年
【学習する上での留意点】	第1回目の内容を確認してください。
1 3 . テ ー マ	道徳教育における最近の研究動向
【学習の目標】	教科書『心理学からみた教育の世界』1章・4章と『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』第1部3章・第2部2章より以下の点を学んでいく。 1. 近年の道徳教育に関する研究の動向を知る。 2. 本領域に関わる問題点を確認する。 3. 相談及び指導とその他援助の在り方。
【学習の内容】	最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関係する研究を取り上げ、論文を講読する。
【キーワード】	道徳性・役割取得能力・集団規範・社会的相互作用
【学習の課題】	子どもの道徳性・役割取得能力について理解する。また本研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。
【参考文献】	安藤寿康・鹿毛雅治『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』慶応義塾大学出版、2013年 藤土圭三『心理学からみた教育の世界』北大路書房、2013年 Hasebe, Y., Nucci, L. & Nucci, M.S. Parental Control of the Personal Domain and Adolescent Symptoms of Psychopathology: A Cross-National Study in the United States and Japan. <i>Child Development</i> , 75, 815-828. 2004 首藤敏元・二宮克美『子どもの道徳的自律の発達』風間書房、2003年
【学習する上での留意点】	第1回目の内容を確認してください。
1 4 . テ ー マ	学習環境と個性における最近の研究動向
【学習の目標】	教科書『心理学からみた教育の世界』8章と『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』第3部4章より以下の点を学んでいく。 1. 近年のATIに関する研究の動向を知る 2. 本領域に関わる問題点を確認する。
【学習の内容】	最近の「教育心理学研究」に掲載されている論文の中から、以下のキーワードに関係する研究を取り上げ、論文を講読する
【キーワード】	適正処遇交互作用(ATI)・適合的教育・学習支援・個人差
【学習の課題】	子どもの知能・学力・創造性・人格形成において教育環境としての教師のパーソナリティ特性と教育技術は重要な要因である。このような教育現場の在り方について理解する。また本研究分野の動向と教育環境の問題点を確認する。
【参考文献】	安藤寿康・鹿毛雅治『教育心理学：教育の科学的解明を目指して』慶応義塾大学出版、2013年 藤土圭三『心理学からみた教育の世界』北大路書房、2013年 榎本博昭・岡田努・下斗米淳『自己心理学』金子書房、2008年 並木博『個性と教育環境の交互作用』培風館、1997年
【学習する上での留意点】	第1回目の内容を確認してください。
1 5 . テ ー マ	総まとめ
【学習の目標】	本講義の中核的なテーマである「教育環境における子どもの健全な発達」に関して、多くの先行研究をもとに今後の教育心理学の動向を再確認する。また、研究者の倫理的問題について理解する。
【学習の内容】	教育心理学の目的、方法、内容についてまとめ、倫理的配慮の在り方について検討する。
【キーワード】	倫理的配慮・研究理念・子ども理解
【学習の課題】	教育心理学の研究の動向と諸問題についてまとめる。
【参考文献】	藤土圭三『心理学からみた教育の世界』北大路書房、2013年 古澤頼雄・齊藤こずえ・都筑学編著『心理学・倫理ガイドブック：リサーチと臨床』有斐閣